

2026 年 9 月 9 日



各 位

会 社 名 株 式 会 社 ス テ ム リ ム
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 CEO 岡 島 正 恒
(コード番号:4599 東証グロース)
問 合 せ 先 経 営 管 理 部 水 野 基 樹
(電話番号:072-648-7152)

代表取締役の異動(増員)に関するお知らせ

当社は、2026年9月9日開催の取締役会において、以下の通り、代表取締役の異動(増員)を行い、共同代表制へ移行することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 異動の内容

これまで代表取締役社長 CEO の岡島正恒が単独で代表を務めておりましたが、新たに現取締役 CSO の玉井克人を選定し、代表取締役 2 名体制へと移行いたします。

氏名	新役職名	旧役職名
おかじま まさつね 岡島 正恒	代表取締役社長 CEO	代表取締役社長 CEO
たまい かつと 玉井 克人	代表取締役会長 CSO	取締役 CSO

2. 異動の理由

当社を取り巻く経営環境の変化に対応しつつ、既存事業の成長及び新規事業創出の取組みをさらに加速させるべく、経営体制の強化及び意思決定スピードの迅速化を目的として、代表取締役を 2 名とする共同代表制へ移行し、経営基盤の一層の充実を図ってまいります。創業者が代表取締役として経営の中枢に加わることで、再生誘導医薬の研究開発に対するコミットメントを一層強固なものとし、その加速を図ってまいります。

3. 新任代表取締役の略歴

氏名 (生年月日)	主な略歴	所有株式数
たまい かつと 玉井 克人 (1960年7月19日)	1990年4月 弘前大学助手 医学部附属病院皮膚科	9,980,000株 (2026年9月9日現在)
	1990年10月 米国ジェファーソン医科大学博士研究員	
	1992年12月 弘前大学助手 医学部皮膚科学講座	
	1995年2月 弘前大学講師 医学部附属病院皮膚科	
	1998年8月 弘前大学助教授 医学部皮膚科学講座	
	2002年4月 大阪大学助教授 医学系研究科遺伝子治療学	
	2003年5月 大阪大学准教授 医学系研究科遺伝子治療学	
	2006年10月 当社 創業	
	2007年2月 当社 取締役	
	2009年10月 大阪大学医学系研究科再生誘導医学寄附講座教授	
	2022年10月 当社 取締役CSO(現任)	
	2023年10月 大阪大学招へい教授(現任)	

4. 異動日

2026年9月9日付

5. 代表就任のコメント

代表取締役会長CSO 玉井 克人

「ステムリムは、私と表皮水疱症の患者さんとの出会いを原点として生まれた会社です。

『患者さんの皮膚は繰り返し剥がれ、組織幹細胞が失われているにもかかわらず、なぜ再生する力を維持しているのか』。この医学的な問いを追究する中で、損傷した皮膚から放出されるHMGB1が骨髄から組織修復に関わる細胞を動員し、皮膚の再生を支えるという新たな生体内再生誘導メカニズムを見いだしました。

私たちは、このメカニズムを医薬品として応用し、HMGB1を基盤とする「再生誘導医薬」を表皮水疱症の患者さんに届けることを目指してステムリムを創業しました。これが、私たちの「第1創業」です。

その後、ステムリムは塩野義製薬との長年にわたる共同研究・開発を通じてHMGB1由来ペプチド「レダセムチド」の開発を進め、上場企業へと成長しました。これを「第2創業」と位置付けています。

レダセムチドは、第1相医師主導臨床試験においてヒトでの安全性に関する知見を得るとともに、表皮水疱症の患者さん9名を対象とした第2相探索試験において有効性を示唆する結果を得ました。そして今回、既存治療では閉鎖に導くことが困難な表皮水疱症の難治性潰瘍の完全閉鎖とその持続を主要評価とする第2相試験において、4例中3例で主要評価項目を達成するという重要な臨床試験結果が得られました。

この結果を大きな転機として、ステムリムはいよいよ「第3創業」の段階に入ります。

私たちの次の使命は、塩野義製薬と力を合わせ、レダセムチドを表皮水疱症に苦しむ患者さんへ一日も早く届けることです。そして、表皮水疱症の患者さんとの出会いから学んだ生体内再生誘導メカニズムを利用して、新たな医薬品を開発し、さらに多くの難治性疾患の治療へと発展させていくことです。

患者さんとの出会いから始まった科学的発見を、確かな治療として患者さんへお返しする。そのための研究開発、患者さんや製薬企業との連携、そして社会実装までをつなぐ「再生誘導医薬のエコシステム」を完成させることが、創業者としての私の使命であると考えています。

今後私は、科学を生み出す責任に加え、その科学を患者さんに届け切る責任を担い、代表取締役社長CEOの岡島正恒氏とともに二人三脚で、すべての時間とあらゆる努力をこの使命の実現に注いでまいります。」

以 上